

国語問題

二〇二四年三月七日

自 一〇・〇〇〇
至 一一・〇〇〇

答案作成上の注意

一、国語のページは

国	1
---	---

から

国	16
---	----

までである。

二、問題は

問題一

から

問題四

までである。

一、二は全員が解答、三、四はどちらか一題を選択して解答すること。

三、解答用紙は、一枚である。

四、解答は、すべて解答用紙の指定された欄に、記入すること。

五、受験番号は、指定された箇所必ず記入し、氏名その他解答以外のことを解答用紙に書かないこと。

問題一

次の文章を読み、問いに答えよ。

「銀行員の行雄は、修行のために諸国行脚を行なった。」

① 何のヘンテツもない文であるが、ここに日本語の漢字をめぐる複雑な様相が反映している。私たちは、「行」という漢字の読み方を幾つ覚えなければならないのか。まず、「ゆき(お)」「おこなう」という訓読みが二つある。訓読みとは、本来外国文字である漢字の日本語訳である。漢文訓読の際に漢字に付けた和訓に由来する。このうち、「山(やま)」「川(かわ)」「谷(たに)」のように漢字に定着したものを訓読みと呼ぶ。

次に、「(ぎん)こう」「(しゅ)ぎょう」「あん(ぎゃ)」のような音読みである。漢字の音読みとは、中国原音の影響を受けているが、原音そのままではなく日本語の音体系に加工されて定着した読みのことである。

特に注目するのは、「行」という基本漢字に三つの音読みと二つの訓読みを加えて、特に高い教養ともみなされることなく私たちが使いこなしていることである。小学生が習うような漢字に蛸足たこのように多くの読みが張り付くのは、日本語の特徴であるとともに日本語の歴史の所産である。

漢字の日本語訳である訓読みは措おいて、複数の音読みを持つ漢字は、「文(もん・ぶん)」「極(ごく・きょく)」「西(さい・せい)」「山(さん・せん)」「木(もく・ぼく)」等、挙げればきりがない。しかも複数の音読みには、それぞれ現代語の基本語彙が「文科省、無一文、文句、文化、文庫、文明」等、たくさん張り付いている。

このような事実には、漢字一字一音の現代中国語を母語とする中国人が驚くという。中国人ですら驚くのであるから、先の「銀行員の」の例文を漢字文化圏外の人が修得するのは、簡単ではあるまい。私なら漢字を覚えるのが嫌になる。

漢字の音読みが複数ある現象を「日本漢字音の重層性」という。この重層性については、それぞれが特徴的なまとまりのある層として把握できることが多い。音読みの重層性を知ると漢字を勉強するのが楽しくなるといふ人も中にはいる。

日本漢字音の主たる層には三つある。最も古い層は、古代の倭国がはじめて体系的に中国文化を知った三世紀から六世紀ま

での中国江南地域に起こった六朝文明の漢字音である。倭人（日本人）は、はじめてこの地の漢字を系統的に勉強した。この古層の漢字の音読みを呉音という。六朝時代は、中国史上例外的に仏教が盛んであったので、呉音には仏教語が非常に多い。「地獄」「極楽」「平等」^②「成就」「勤行」等、これらは呉音から構成されている。

ついで系統的に日本人が中国文化を学んだのが六世紀から八世紀の隋唐帝国の律令制度の導入を通じてである。隋唐時代の文化の中心は、洛陽、長安のような黄河流域であり、この地に留学した日本人が持ち帰ったのが新層の漢音である。隋唐音をなぜ「漢音」と呼ぶのか、詳しくは分からないが、奈良時代末期にはすでに「漢音」と呼んでいた。中国でも後代、中古音を漢音と呼んだ例がある。「漢字」「漢人」のように中国を代表する概念を「漢」で表示することがあったからかもしれない。漢音は律令政府と大学寮が積極的に導入を図ったので、制度、儒学等の世俗的概念を表す語に使われることが多い。例えば、「内裏」^①「皇帝」^②「月令」^③「經典」^④「圖書」^⑤「古文」等である。

漢字音の三番目の層が十三世紀、鎌倉時代の日宋交流がもたらした唐音である。唐音は、宋代の文物、特に禅宗とともに入った語が多い。これは、先の「行脚」をはじめ、「行燈」「提灯」「椅子」「蒲団」「暖簾」「饅頭」等、呉音と漢音の知識からは読めない漢字で構成された語彙がそれが指し示す文物とともにハクライしたのである。禅宗とともに入った経緯から、新来の文物には禅ゆかりのものが多くという。宋代の中国音を「唐音」と呼ぶのは、これも漢音と同様に一時代前の王朝名で中国を代表させる意識からであろうか。

唐音が使われる漢字は、特定の文物を表す単語と結びついて現れるので、呉音や漢音のような新しい単語を作る力が欠けている。したがって唐音を知るには唐音が使われる単語を覚えるのが近道である。

漢字の音読みを仮名で表示ようになるのは、鎌倉時代以後の主に仏書がはじまりである。この時代を境にして、漢字と漢字文化が仏教を介して次第に庶民の生活に及びはじめた。

呉音は、六朝時代の漢字音、漢音は隋唐の漢字音を基礎にしたものであり、地理的、歴史的な差を反映する。日本漢字音の重層構造成立の原因は、呉音、漢音さらに唐音もまた、特定の社会集団の知識人の専有であったことにある。呉音は、飛鳥・

奈良の仏教界、漢音は奈良・平安の律令政府と大学寮、唐音は鎌倉時代の禅宗という、聖・俗の巨大シンクタンクの構成員がそれぞれ使用した漢字の音読みの制度的習慣である。外来語音声である漢字音は、限定された知識人が保有したものであって、日本語の共同体に直接流入したものではない。特定の知識人社会の音読みのしきたり、制度であるから、それぞれの漢字音は、社会集団内で伝承される保守的性格を持つ。したがって大和言葉の自然の音声実態とは異質の存在であったが、ほかならぬ日本人が日本漢字音の担い手である以上、日本語音声の歴史的变化と完全に無縁ではなかった。

古代における漢字と漢字音は、上流知識層の専有物であり、中世以後、仏教とともにゆつくりと民衆の精神生活に下降してきた。大衆レベルでの漢語の普及は、江戸時代以後の各地の藩校と地域の寺子屋が輩出したシキジソウ^⑤に支えられた出版物とともに実現した。

出典…釘貫亨『日本語の発音はどう変わってきたか』（中公新書 二〇二三年）一部改

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直せ。

問二 文中の呉音、漢音について次の問いに答えよ。

- ① 呉音、漢音のルーツとなった中国音が起こった地域をそれぞれ答えよ。
- ② 本来、呉音・漢音をそれぞれ使用していた社会集団を答えよ。

問三 呉音・漢音とは異なる唐音読みの漢字の特性を文中から25字でそのまま抜き出せ（句読点も1字とする）。

問四 日本漢字音に関し、波線部A「大和言葉の自然の音声実態とは異質」を具体的に説明している箇所を含む文の、最初と最後の6字を抜き出せ（句読点も1字とする）。

問五 現代の中国と日本の漢字音について、大きく異なる現象を考えて答えよ。

問題二

次の文章を読み、問いに答えよ。

もう一つ、近年注目されているのが、拙い絵である。きつかけは、二〇一九年に開催された「へそまがり日本美術」展。二〇一六年の拙著『日本おとぼけ絵画史』（講談社）をもとにした展覧会である。非の打ち所のない輝かしい美術作品の一方で、そうではない、決して綺麗とは言えないもの、不格好なものに、誰もがなぜか心惹かれることがある。そのような動きを「へそまがりの感性」と名づけて、それがどれほど素晴らしい日本の美術を生み出すグエンドウリヨク^②になってきたかを眺めてみようという試みだった。

たとえば禅画。禅僧が何かしらの教えを込めた禅画は多いが、中でも白隠や仙厓が描いた、どう見てもへなちよこで、拙いというか、頼りないというか、現代で言えばヘタウマ風の「ありがたい絵」が山ほどある。また、俳諧の世界で描かれた俳画にも、これはいくらか何でもというほどおかしな、下手な描き方が見られる。その代表格は、俳人の与謝蕪村だ。そればかりか、超技巧派で知られる若冲にも、素朴な描き方に徹した伏見人形の絵がいくつもある。更には、同じ京都の長沢蘆雪は、「ゆるゆる」の絵を描きに描いた。蘆雪は応挙の大変優秀な弟子の一人で、^③ 応挙ばりに精神を研ぎ澄ました、繊細な透明感とリアリティーに溢れる作品も描いているが、ゆるゆるの描線による、よれつとした絵はそれ以上に多い。たとえば、本物のようなかわいらしさで人気を呼んだ応挙の子犬を真似て、蘆雪も子犬の絵を描いているが、大半は、形もシマ^④って賢そうな応挙犬とは全く別の、だらしなくてダメそうな犬ばかりである。そんな蘆雪犬もまた京都で大人気だったことは、今に残る作品の多さからして確かだ。

白隠や仙厓の禅画も、蕪村の俳画も、若冲の伏見人形も、そして蘆雪の子犬も、描く側と見る側双方の心の中にある「へそまがりの感性」があつて成り立つ美術である。上手いとされるものを崩すことの面白さ、壊すことの心地よさを、江戸時代の人たちは一つの楽しみとし、それが時を超えて二一世紀の私たちにもまっすぐに響いてくるわけだ。「ゆるい」という言葉が一種の褒め言葉にもなった昨今、こうした江戸絵画の「ゆるい」を、私たちは魅力として、また価値として素直に受け入れる

ことができるのだろう。

更に、そうした江戸時代のへそまがり絵画には、ちゃんとそれぞれに理念があるから面白い。なぜ生まれたか、なぜ魅力的か、理論的な分析もできる。俳諧は、平安貴族の世界の、ある意味気取った和歌への反発から生まれた文芸だ。俗なものやおかしみをどう取り入れるかは、大事なポイントである。俳画、つまり俳諧の趣^⑤に添った絵を描く際に、ただ上手なだけではない、時に蕪村のようになかりおかしな描き方をするのは、理論上の必然でもある。また、若沖の伏見人形の絵は、量産される民芸品という若沖とは別の世界の造形が、日々技巧を追求する若沖の目には「素朴」と映り、その味わいを意図して、いびつさを強調して表したものだろう。そして蘆雪のゆるい絵は、緊張感のあるものに対する「弛緩した形」という、対比の面白さから生まれた造形だ。どれも、近代の絵画のように「B」^⑥というような一つの描き方だけが絶対ではなかった時代、さまざまなスタイルの画家たちが互いを認め、引き立て合っていた時代だからこそ生まれた魅力とも言える。

(中略)

下手な絵、変な絵。それらには、江戸時代の人たちの高度で複雑な感性や表現が息づいている。「芸術はかくあるべき」という近代の決まり事に縛られてきた私たちは、美術館に並んでいる絵、本に出ている絵は立派なものであり、拝むように見なければならぬと何となく教え込まれているところがある。でも、日本の美術には元々おかしなものも一杯ある。上手く描くことだけが唯一の価値ではないと教えてくれる江戸絵画を楽しむことはまた、^⑦全ての人の、生きることの嬉しさや自信につながるかもしれない。

出典…金子信久「江戸絵画が楽しい理由」『すばる』二〇二三年五月

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 (1) 傍線部A「へそまがりの感性」として適していない表現を次の中から選べ。

- ① 不格好のものに心惹かれる
- ② おかしいものを「おかしい」と言う
- ③ 上手いとされるものを崩すことを楽しむ
- ④ 「ゆるい」ことを価値として素直に受け止める

(2) 以下の文章は、本文で紹介されていた若冲「伏見人形」についてまとめた鑑賞文である。筆者の主張に即し、次の空欄（Ⅰ）（Ⅱ）にふさわしい言葉を本文から選んで抜き出せ。

この絵にも「へそまがりの感性」が見られる。日々技巧を追求する若冲の目にはこの伏見人形にある種の（Ⅰ）さを感じ取ったが、そのバランスを崩す形で（Ⅱ）を強調して表したものと考えられる。

問三 空欄Bにふさわしい語句を次の中から選べ。

- ① 基本は写実
- ② 基本はイメージ
- ③ 基本は模倣
- ④ 基本は素朴

問四 傍線部C「全ての人の、生きることの嬉しさや自信につながるかもしれない」のように筆者が考える理由を説明した文章として、次の空欄に本文の言葉を26字で抜き出し、最初と最後の5文字で答えよ。

下手な絵、変な絵に価値を見出す江戸絵画は、私たちに（

）から

問五 本文を読み、江戸絵画にはどのような特徴や魅力があると考えたか。あなた自身の考えを50字程度でまとめよ。

問題三

次の文章を読み、問いに答えよ。

著作権の都合上、省略。

出典…西村義樹・野矢茂樹『言語学の教室 哲学者と学ぶ認知言語学』（中公新書、二〇一三年）

著作権の都合上、省略。

問一 「メタファー（隠喩）」「直喩（シミリー）」について、次の問に答えよ。

- (1) 本文に挙がっているもの以外で、メタファー（隠喩）、直喩（シミリー）の例を1つずつ挙げよ。
- (2) メタファーと隠喩の違いを「〜かどうか」に続く形で、本文から15字以内で書き抜け。

問二 傍線部A「夜の底が白くなった」は『雪国』の冒頭第2文である。これについて、次の問いに答えよ。

- (1) 『雪国』の著者を次の中から答えよ。
a 堀辰雄 b 小林秀雄 c 志賀直哉 d 太宰治 e 川端康成
- (2) 以下は『雪国』の冒頭第1文である。空欄①・②を完成させよ。漢字表記の語句は漢字で書け。
（①）の長い（②）を抜けると雪国であった。

問三 傍線部B「村上春樹」の著作を次の中から一つ選べ。

- a 機関車先生
- b コインロッカー・ベイビーズ
- c 羊をめぐる冒険
- d わたしを離さないで
- e 限りなく透明に近いブルー

問題四

次の文章を読み、問いに答えよ。

薩摩守忠度は、いづくよりか引き返されたりけん、侍五騎具して、五条の三位俊成の卿の宿所^Aにうち寄りて見給へば、門戸を閉ぢて開かず。うちを聞けば、「¹落人¹帰り上りたり」とて、おびたたく騒動す。門^Bをたたけども、あけぬあひだ、「これは薩摩守忠度と申す者にて候ふが、いま一度見参に入り、申すべきこと候²うて、道より帰り上りて候²ふなり。たとひ門をあけずとも、この際まで立ち寄せ給へ」とのたまへば、三位これを聞き、「^Cその人ならば苦しかるまじ。入れ申せ」とて、門を開き、対面ある。

忠度は紺地の錦の直垂³に、萌黄緘の鎧を着給へり。薩摩守のたまひけるは、「年来、^D申し承つてのち、いささかもおろかに思ひたてまつることは候はねども、この三四年は、京都のさわぎ、国々の乱れ、しかしながら当家の身の上にて候へば、この事どもにつきて、疎略を存せずといへども、つねに参り寄ることも候はず。されども、撰集のあるべきよし、承り候ひしかば、『生涯^Eの面目に、一首の御恩をかうむり候はばや』と存じ候ふところに、やがて世の乱れ出でて、その沙汰もなく候ひしことども、一身のなげきと存じ候。君すでに都を出でさせ給ひぬ。屍を山野にさらさんほかは、期するかたなく候。世しづまりなば、さだめて勅撰の沙汰候はんずらん。そのうちに一首御恩をかうむり、草のかけまでも、『うれし』と存じ候はばや。また遠き御守りともなりまゐらせべし」とて鎧の引合より巻物一つ取り出だし、俊成の卿に奉る。三位この巻物ちとひらいて見給ひて、「かかるわすれがたみを賜はりおくなれば、ゆめゆめ疎略を存ずまじく候。勅撰のことは、人は知らず、愚身が承らんにおいては、御疑ひあるべからず」とのたまへば、忠度、「⁶今生の見参こそ、ただ今をかぎりと申すとも、来世にてはかならず一つ仏土に参りあはん」とてぞ出でられける。

薩摩守、兜の緒をしめ、馬の腹帯をかため、うち乗つて、西をさして歩ませ行く。三位はるばると見送りて立たれたるところに、薩摩守の声とおほしくて、

前途ほど遠し、思ひを雁山の夕の雲に馳す

と、たからかにうち詠じ給へば、三位これを聞いて、涙をおさへて入り給ふ。

げにも、世しづまつて、勅撰あり。「千載集」これなり。その中に忠度の歌一首入れられたり。「心ざしの切なりしかば、あまたも入ればや」と思はれけれども、勅勘の人なれば、名字はあらはさず、「読人知らず」とぞ入れられける。「故郷の花」といふ題にて詠まれたる歌なり。

^G さざ波や志賀の都はあれにしを昔ながらの山ざくらかな

その身すでに朝敵となりしうへは、子細に及ばずとはいひながら、口惜しかりしことどもなり。

出典…水原一校注 新潮日本古典集成 『平家物語』中 二〇一六年 新潮社

問一 傍線部A「宿所」とは何を指すか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 忠度の邸
- ② 俊成の邸
- ③ 京都御所
- ④ 旅先の宿

問二 傍線部1～6の読みを書け。

問三 傍線部B「門をたたけども、あけぬ」とあるが、なぜ門を開けなかったか。次の中から、適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 夜遅く周りに迷惑なため
- ② 都落ちした武士なので危険かもしれないため
- ③ 喧嘩をしていたため
- ④ ぐっすり眠っていて気づかなかったため

問四 俊成が傍線部C「その人ならば苦しがるまじ」と述べたのはなぜか。次の中から、適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 忠度が自分の弟子だったから
- ② 忠度が平家の御曹司だったから
- ③ 忠度がまだ幼かったから
- ④ 忠度はもう負けたも同然の立場だったから

問五 忠度が傍線部D「申し承つてのち、いささかもおろかに思ひたてまつることは候はねども」は何を「おろかに思ふ」とが
ないのか。次の中から、適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 漢詩文
- ② 和歌
- ③ 弓道
- ④ 香道

問六 傍線部E「生涯の面目に、一首の御恩をかうむり候はばや」とは何を頼んでいるのか。次の中から、適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 自分の歌を勅撰集に載せてほしい
- ② 自分の命を助けてほしい
- ③ 自分の気持を帝に伝えてほしい
- ④ 自分の無念を晴らしてほしい

問七 傍線部F「遠き」とは具体的にどこか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 山口県
- ② 京都
- ③ 陸奥
- ④ あの世

問八 傍線部G「さざ波や志賀の都はあれにしを昔ながらの山ざくらかな」は、なぜ「よみ人知らず」歌と記載されているのか。適切なものを選び、番号で答えよ。

- ① 朝敵になった人の歌だから
- ② 勅撰集を編集した人歌だから
- ③ 天皇の歌だから
- ④ 誰の歌かわからないから